

学位論文審査の要旨

学位申請者	吉田 隆子 2018年3月単位修得退学		論文題目	集団保育における子どもにとっての食事場面の意味と「楽しく食べる」こと —管理栄養士によるフィールドワークからの検討—
審査委員	主 査:	柴坂 寿子 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	小玉 亮子 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	浜口 順子 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	刑部 育子 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	富士原紀絵 准教授		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (学術) (Ph. D. in Child Studies)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について(複数選択可)

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、幼稚園及び保育園でのフィールドワークを通して、子どもが「楽しく食べる」ことに焦点を当て、集団保育における子どもにとっての食事場面の意味を明らかにすることを目的とするものである。2005年の食育基本法制定以降、保育において食育が重要視されるようになり、子どもが「楽しく食べる」ことが求められるようになった。しかし、そこで想定されている「楽しく食べる」子どもの姿はあくまでも大人の期待する姿であり、「子ども自身にとって楽しい」という観点とは別のものである。本研究はフィールドワークによって幼稚園及び保育園の食事場면을観察し、実際の子どもの姿から、子どもにとっての食事場面の楽しさを明らかにしようとした。

「園長や保育者から園での食事に問題があるとされる子ども」(第1研究)、「園長や保育者から園での食事に問題がないとされる子ども」(第2研究)を対象にフィールドワークを行い、比較総合した結果、以下の点が明らかになった。第1に、園には小学校の給食時間を考慮した「学校時間」内に完食するという規制が存在するが、通常は保育者はこの規制を緩やかに適用しており、子どもは自分なりの速度で食べながら周りとの直接的間接的関わりを楽しんでいることが多い。第2に、「園での食事に問題があるとされる子ども」に対しては、保育者は規制を強く向け、子どもは基本的に楽しそうではない。第3に、保育者による規制の強さの背景には小学校からの要請と共に、栄養摂取のための完食への責任感がある。これらの結果から、集団保育における食事場面は、子どもにとっては自分なりの速度で食べながら周りとの関わりを楽しむ場という意味を持つこと、この意味が実現されるためには保育者の関わりが重要であること、保育者の関わりには保育者を取り囲む状況が影響することが示唆された。

本論文の審査は、2019年11月20日、2020年1月22日の2回にわたり開催された。第1回審査会では、丁寧な観察に基づいて子どもにとっての食事場面の楽しさとつらさが活写されており、説得性のある論文であること、保育者が抱える負担とその背景が明らかになったことで保育者を取り囲むマクロレベルの問題が浮かび上がったこと、栄養摂取上自明視されている「完食」を「規制」として捉え直す視点を示したことで、園での食事に関わる管理栄養士・栄養士に対して重要な実践上の示唆を与えることが高く評価された。一方で、楽しさを読み取る方法論上の立場と限界、子どもを「問題」と捉える主体は園長や保育者であること、保育者が子どもに完食を促す背景の3点に関して、記述をさらに明確化する必要性が指摘された。第2回審査会ではこれらに対して修正が適切になされたことが確認された。公開発表会は2020年2月19日に開催された。保育・児童学及び食物栄養学の両分野から参加者を得て活発な質疑がなされ、それらに対して適切な応答がなされた。

以上の結果から審査委員会は、本論文が博士(学術)、Ph.D. in Child Studies にふさわしいと判断し、合格とした。